

研究テーマ	様々な形や色の組み合わせの偶然性を楽しむ絵画指導の工夫 ー小学校 第2学年「ぼかしあそびで」の実践を通してー
-------	---

潮来市立日の出小学校 教諭 海老沢眞美

I 研究テーマについて

本校の2年生は図工が好きな児童が多く、クレヨンやクーピーを使い好きな物をのびのびと描くことができる。しかし、中には対象とする形そのものにこだわるあまり、そっくりに描くことができずに途中で手が止まってしまう児童や、表現能力が未熟なために自分の思いをうまく表現できずに途中であきらめてしまう児童がいる。そのため、絵を描くことを初めから嫌がる児童がいる。

そこで、児童が思い込んでいる絵画の画一的な表現だけではなく、様々な形や色の組み合わせからできる偶然性を楽しめるような指導を工夫したいと考えテーマを設定した。

II 研究の実際

1 題材名 「どうぶつさんといっしょに」（ぼかしあそびで）A表現（2）

2 題材の目標

ぼかしあそびで絵に表すことを通して、形や色、方法や材料を工夫することができる。

3 題材について

(1) 児童の実態

本学級の児童は、「図工が好き」と感じている児童がほとんどである。友達の作品を観るのも好きで、気に入った表現があれば、柔軟に取り入れることができる良さがある。一方で、絵を描く際に具体物を写實的に描けていれば上手だと思っているところがあり、鑑賞で良いと思った作品に偏りがあり、似たような表現の仕方に偏ってしまうという面もある。このことから、学年が上がるにつれて絵に対して苦手意識を持ってしまわないかという危惧がある。ぼかしあそびを通して、そっくりに描くだけではなくて、様々な形や色の組み合わせの偶然性を楽しめるように表現の幅を広げていきたい。

(2) 題材観

この題材は、好きな動物と自分のかかわり合いを周囲の情景も含めて表すことを目的としている。まず「6月の絵を描こう」というテーマの色塗りで、色の混ぜ方や、ぼかし方に慣れる。そして、次の時間には学習したことをもとに自分で自由に色を重ねたり、ぼかし方を工夫したりして模様作りをする。最終的には「どうぶつさんといっしょに」やりたいことを絵に表す。同じ画用紙に動物や人間を描き足すと、2年生の発達段階では、後ろの背景が気になってしまいのびのびと描くことができないので、別の画用紙に人物と動物の絵を描き、切り取ってボンドで模様づくりの画用紙に貼り付けることで作品作りをしていく。

(3) 指導観

絵を描くときに具体物を描くのではなく、自由に模様づくりを楽しむということは「絵のぐじま」で学習してきている。ぼかしあそびでも、具体物を描くのではなく、「ためしてみよう」という気持ちで模様作りができるように指導したい。更に、絵を描くことが苦手な児童でも、ぼかして偶然できた模様を見立てることで、そっくりに具体物を描くこと以外にも表現の方法があることを気付かせていきたい。そして鑑賞では、ぼかした模様の工夫や表現した場面のおもしろさという視点で見られるようにしたい。

4 題材の評価規準

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
クレヨンやパスなどの描画材料を用いたぼかし模様をつくる楽しさを味わおうとする。	動物とふれ合ったことの中から心に残ったことを思い浮かべ、表したい場面を考えることができる。	すきな色を選び、気に入った形になるように工夫して表すことができる。	自分や友達作品を見ながら、形や色、表し方のよさに気付くことができる。

5 指導と評価の計画（5時間扱い）

時間	学習内容・活動	評価規準・【評価方法】
第1次 1	「いろいろなぼかしあそびになれよう」 ・画用紙の色塗りを通して色々なぼかし遊びに慣れる。	・ぼかし遊びに興味を持ち、楽しみながら活動しようとする。 関 【作品、発言】
第2次 3	「ぼかしあそびをためしてみよう」 ・動物とふれ合った経験を思い出して自分が表したい場面を考える。 ・前時に学習したことを使いながら、自分で色や形、ぼかし方を試しながら模様づくりを行う。	・動物とふれ合った経験を思い出して表したい場面を考えることができる。 発 【作品、振り返り】 ・模様づくりをいろいろ試みながら、色の組み合わせや形やぼかし方を工夫することができる。 創 【作品】
	「動物や人物を描き足してみよう」 ・画用紙に動物や人物を描き、切り取って模様づくりを行った画用紙に貼り付ける。	・色の組み合わせや形やぼかし方を工夫して動物や人物を描くことができる。 創 【作品】
第3次 1	「鑑賞しよう」 ・友達の作品を鑑賞して良い点や工夫している点を見つける。	・自分や友達の作品のよいところを見つける。 鑑 【発表、鑑賞カード】

6 指導の実際

(1) いろいろなぼかし遊びに慣れよう

6月の絵を描こうというテーマの練習用の画用紙に、クレヨンやクレパスを使って色を塗り、ティッシュでこすってぼかします。

「先生？ぼかさないとだめ？」

「あじさいは紫だよえ・・・」

と初めは言っていた子供たち。しっかり塗れたのに、ぼかすということに、抵抗があったようだ。

班の友達の様子を見ながら、活動を進めていった。



かす



「先生、カラフルにしていい？」

ある子は、花びらの一つ一つを違う色で丁寧に塗っていた。

「ぼかすとどうなるか、楽しみ。」

「クレヨンをねかせて塗ったら線が太くなったよ。」
「ここは、色が混ざって面白いね。」
「色々な色を混ぜてぐるぐるしてみたよ。」



「あじさいの塗り方でも違いがあるね。」
「青と紫、ピンクの丸で花びらを描いたよ。水玉みたい。」
「色を混ぜてぐるぐるって塗ってみたよ。」

初めはぎこちなかった子供たちも、思い思いにぼかし遊びをすることができた。色を混ぜたり、点々をうってみたり、工夫をしながらぼかし遊びに慣れることができた。



(2) ぼかしあそびをためしてみよう

「動物さんといっしょに」やりたいことを絵にします。前時に学習したことをもとにして、自分で色や形、ぼかし方を工夫しながら模様づくりを行います。これが絵の背景になります。

導入では、遠足で動物園に行ったことを思い出しながらどんな動物がいるかみんなで出し合っ

ゾウ、キリン、ライオン、レッサーパンダ、オウム、フラミンゴ、カバ、トナカイ、ニホンザル、ゴリラ、カンガルー、ペンギン、ゾウガメ、ハシビロコウ、フクロテナガザル・・・

たくさん名前があがった。

次に、「動物さんといっしょに だれが どこで 何を」したいかを考えた。

- ・ペンギンさんと一緒に公園でペンギン歩きをしたい。
- ・友達とゾウガメの甲羅の上ののりた。
- ・友達と一緒にライオンの上ののって校庭を走り回りた。
- ・馬と友達と、雲の上に乗って虹を見たり、うさぎをなでた。
- ・レッサーパンダと友達と、木の上で日向ぼっこをしたい。
- ・さるといっしょに森で木登りしたい。

次々と想像力豊かな意見が出てきた。

動物さんを描く前に背景づくりをした。前時に学習したことをもとに、色や形、ぼかし方を工夫しながら模様作りを行った。



太陽、空、草を描きたい。
ぼかしてみたら、やさしい感じになったよ。



一色ずつ色を変えて塗ってみたよ。上に描いたハートが、下の色を透かして見えるよ。



手前は雲や太陽を表しているそうです。
紫色が好きで、紫をたくさん使って塗りました。



雲の上で虹を見ているようにしたかったので、虹と雲を描きました。ぼかすことで、ふわふわとした感じが描けました。



雪が降っているように描きたいな。
灰色、水色、白を混ぜて塗ってみたよ。
きれいにぼかせるかな。



夜を表しています。夜は何色で描けばいいかな。迷いながらも色を混ぜてみたら楽しくなってきた、思い切りよく描きました。

(3) 描きたしてみよう

画用紙に動物と人物の絵を描いて、切り取って背景を描いた画用紙に貼り付けます。

小さくなりすぎないように声をかけて、鉛筆で下書きをしてから色塗りをした。



「見て、白と灰色を混ぜたら本物みたい」
「すごい、大発見だね。前に習ったの、ぼかしてみたら？」
「もっと本物みたい!」

近くの席の二人は、ゾウガメのことに決めた。

「色混ぜてもいい？」
「ぼかしてもいい？」
「違う色でもいいの？」

ゾウガメの甲羅は、塗り甲斐があるようで、熱心に塗っていた。



描く



「魔法が使えるねこだよ」
「紫色でぐるぐると塗ってぼかしたら、不思議な感じになったよ」
「ライオンのたてがみを、カラフルに塗ってみたよ」

(4) かんしょうをしよう

友達の作品を鑑賞して、良い点や工夫している点を見つける。

自分で振り返りをしたあとに、鑑賞カードを使って、お互いの作品を鑑賞し合った。

作品	振り返り	友達の鑑賞カードから
 <p>「ペンギンとレッサーパンダとスケート」</p>	<p><u>大好きなペンギン、レッサーパンダを描けたのが嬉しかったです。</u>遠足で動物園に行ったとき人気の風太くんに会って、描こうかなと思いました。ペンギンは水の中を早く泳いでいたの<u>で氷の上を早く滑れるのかな、</u>と思いました。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・木の下にいる女の子がかわいいです。レッサーパンダも目がくりくりしていてかわいいなと思いました。 ・レッサーパンダの<u>色合いが工夫</u>されていてかわいかったです。
 <p>「どうぶつの上にみんなでのってる」</p>	<p>ぼくは、ゾウガメを描きました。<u>ゾウガメの色を混ぜたりゾウガメの色をぼかしたのが楽しかった</u>です。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>かめの色がとてもいい</u>なと思ったし、見ていて<u>さわやかな</u>感じがしました。 ・<u>かめの色が</u>きれいですね。魚もにじ色で<u>かっこいい</u>ですね。
 <p>「どうぶつさんといっしょにたからさがし」</p>	<p><u>色を混ぜるのが楽しかった</u>です。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ライオンが<u>どうどうと</u>描けていて迫力がありました。<u>毛の色がカラフルで明るい</u>感じがしました。 ・ライオンが格好良くて迫力がありました。宝箱の中に何が入っているのか気になりました。
 <p>「どうぶつといっしょにたんけん」</p>	<p>楽しかったことは、色を塗ったところです。難しかったことはボンドを使ってくっつけたところです。どこにつければいいか分からなかったからです。次に難しかったのははさみで切ったところです。ぼかしあそびでは、<u>ティッシュでぼかしてきれいな色が</u>作れました。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ぞうがきれいに描けています。子供たちも上手です。<u>ぞうの色を混ぜているところが上手</u>です。 ・ぞうが、<u>水色と灰色が混ざって</u>いて本物みたいですね。大きくてかっこいいです。
 <p>「どうぶつさんへいっしょにゆめのせかいへ行こう」</p>	<p>前は絵を描くのが苦手だったり、絵を描くのがつまらなくなったりもしたけれど、絵を描くのは楽しいものなんだろうなと思いました。今度は細かい絵をぼかしあそびで描いてみたいと思いました。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・うしろが白いところがなく虹色にぬれていてきれいですね。 ・「ゆめのせかいへいこう」という通りに、女の子とどうぶつが夢の世界へいって楽しんでそうでした。

振り返りからは、次のような意見も出された。

- ・空を描くのが前よりもうまくなった。人を描くのが楽しかった。いろいろな動物を描くのをやってみたい。
- ・前よりもうまくなりました。本番では、自信がなかったけど、途中で楽しくなってきた面白いなと思いました。へたくそだけど楽しかった。
- ・動物を描いて、ぼかしたのが楽しかった。
- ・今度は、いろいろな動物や、景色や、クラスのお友達を描きたいと思いました。
- ・前は薄く描いたけど、クレヨンでぼかしながら描いていくと濃く描いてもいいかなと思いました。ぼかして色が変わることをしたことがなかったので、いい勉強をしたなと思いました。
- ・ぼかして描いてやったのがきれいで、たまあに汚くなったけど楽しかったです。
- ・色と色を合わせてみたらきれいになった。
- ・はじめは、上手に絵を描きたいと思っていました。けど、クレヨンに色が混ざって汚くなっちゃいました。けど、こすったり、よく塗ったら、きれいにできました。

III 研究の成果と課題

1 成果

- ・絵を描くことが苦手な児童も、模様づくりでは楽しんで活動に参加することができた。
- ・振り返りから、自分が好きな動物を描くことができる、自分がやりたいことを絵にできる、という点で活動を通して満足感を得ている児童が多かった。
- ・色を混ぜる、ぼかす、という技法を学習したことにより、表現の幅が広がった。
(生活科の観察カードや絵日記、ポスターを描いた際にも自分からぼかしている児童が見られた。)

2 課題

- ・児童によっては、そっくりに描きたい、はっきり描きたいという欲求がある児童もおり、クレヨンで塗った上からこすってぼかすということに抵抗を感じている児童もいた。ぼかしは表現の一つとして学習したので、次回からはそのことを伝え、描き方を選ばせたい。
- ・2年生の発達段階では、はさみを使って切ることに熟達している児童が少く、切り取る際に切り口が雑になってしまう作品が見られた。切ることの指導も必要だと感じた。
- ・鑑賞では、色の美しさや色が混ざり合ってきたことによる面白さを観点として見ることができる児童もいたが、まだまだ形のみを捉えて鑑賞する児童が多い。全体で一枚の絵をじっくりと鑑賞する機会を作り、作品を見る視点に幅を持たせたい。